

発行:余市協会病院

発行日:平成 30 年 6 月 1 日

発行人:吉田 秀明

編集人:広報委員会

お問い合わせ:0135-23-3126

VOL.168 6月号

はつらつ Plus

金野理学療法士
凱旋特集

世界最貧国マラウイでの 2 年を振り返って

理学療法士の金野健人です。地域医療国際支援センターの制度を使用し青年海外協力隊としてアフリカで 2 年間の活動を行い、4 月より余市協会病院へ復帰しました。今回は僕の 2 年間を簡単にお伝えしたいと思います。

僕はアフリカ南東部に位置する、マラウイ共和国で 2016 年の 1 月から 2018 年の 1 月までの 2 年間理学療法士として活動を行って来ました。マラウイは、アフリカ南東部に位置しており北海道と九州を合わせた程度の大きさに人口約 1700 万人が住んでおり、一人当たりの国民総所得(居住者が国内外から 1 年間に得た所得の合計)は 250 米ドル(約2万7千円)で世界最貧国と言われています。



日本から約 12,100km.

飛行機で 24 時間のところにあります。

マラウイの医療は全て無料。診察もレントゲンも薬もリハビリテーションも全て無料。すごく良く聞こえるかもしれませんが、実情は深刻でした。医療従事者と患者間には大きな格差があり、例えば緊急の処置を必要としている患者がいたとしても看護師はナースステーションで談笑している。リハビリテーションは自主トレがメインで担当スタッフは隣で携帯電話のゲームをしているというのは病院では日常茶飯事でした。

僕が配属されたのは、イギリスの NGO(非営利組織)スーライダー基金マラウイというところで、医療機関へ通うことが困難な僻地に住む人々へ薬とリハビリテーションの提供を目的に僻地の村々を回り活動を行っていました。

(裏面へつづく)



僻地に舗装された道などは無く、荒れた道を毎日片道一時間かけ患者さんの元へ向かいました。



村では、大きな木下や教会をクリニックと名付け、患者さんを診て来ました。

ホームページがリニューアル!

<https://ssl.hokushakyo.jp/yoichi-hospital>

どちらもフォローお願いします!

facebook

(表面からのつづき)

現地でのメインの活動は、患者さんの治療に加え同僚や学生の指導などでした。赴任当初は言葉の壁や時間の感覚など文化の違いに悩み、苦しい日々を過ごしていました。しかし活動後半には会話は基本現地語で、初めて会ったマラウイ人から「お前はマラウイ人か？」と聞かれるまでになりました。



同僚と共に村の人々へ向けて行ったワークショップ



同僚と学生の為に行った勉強会

この2年で僕は数え切れないくらい多くのことを学ばせてもらいました。例えば、水や電気があることが当たり前では無いことや、家族や友人の大切さ、学校へ行き学ぶことができることの有り難みなど、日本にいて当たり前感じていたことは、世界に出て見ると当たり前では無いということに気づくことができました。また人種や言葉、宗教が違ってても尊敬し助け合える人々に出会うことができたことは、これからの僕の人生において大きな力になると思います。

僕の全ての活動を報告することは、紙面の都合上できなかったのもマラウイについて興味のある方は、リハビリテーション科までお越しください。嬉しいことに講演の依頼も頂いているので、今後はこの経験を少しでも多くの人へ伝えていき、日本とマラウイがお互いに発展していけるような手助けができたかと考えています。そして僕自身の新たな夢に向かって一歩ずつ前進して行きたいと思います。理学療法士 金野 健人



2年で大きく成長した僕の患者さん達



電気がなくても、大切な人たちと一緒にいるだけで十分。朝日が出るまで飲み明かしました。



救急件数 (4月)

外来受診194件 うち入院37件
救急車来院58件 うち入院24件